

まちづくりやボランティアなどに参加している
地域活動の担い手をシリーズで紹介します

今日からはじめる 防犯活動

地域の防犯活動って、参加してみたいけれど大変そう…などと思っ
てはいませんか。今回は、最近活動を始めた「新川東町内会（田代禎男会長）『美化美化運動隊』」を例に、誰でもできる防犯活動を紹介します。

●「まちの美化」から「地域の安全」へ

美化美化運動隊は、ごみ拾いをしながら、一人暮らしの高齢者の家に変化はないか、空き家の窓が割れていたり可燃物が放置されていたりして安全面に問題はないかなどを確認し、清掃活動と防犯活動と一緒にしています。もちろん通りかかった人にあいさつをする、声掛け活動も忘れません。

運動隊を立ち上げるきっかけは、同町内会の防犯部長吉田忠さんの提案でした。吉田さんは以前から、地域住民同士のつながりが弱いと感じていました。近所の人の顔が分からない、話す機会もない。こ



参加者に腕章を配る吉田さん(左)。一緒に頑張りましょうなどと声を掛けます。

れでは何かあったときに、助け合うことができないかもしれない——そこで考えたのが、この「美化美化運動」でした。「ごみ拾いや安全確認はもちろんのこと、参加者同士が話をしながらまちを歩くことで、地域のきずなが生まれれると思っ
うんです」と吉田さん。その言葉通り、ごみを拾う参加者たちから明るい笑い声が聞こえていました。

●気軽にできるから続けられる

運動隊の決まった活動は毎月1日の30分間ほどで、約50人の方が



笑顔でおしゃべりをしながらごみを拾う参加者たち。回数を重ねるごとに知り合いも増えていきます。

参加しています。事前の登録や連絡は必要なく、当日集合場所に行けば、運動隊の腕章とプレートがもらえます。参加のきっかけは、町内会の回覧を見て、お友達に誘われてなど、皆さんいろいろ。毎回必ず参加しなければいけないわけでもありません。都合がつけば皆さんと一緒に活動する。活動日以外でも、時間が空けば自主的に活動を行う。そんな気軽さが、続けていく秘訣なのかもしれません。

ほかの地域でもこんな活動をしています！

青色回転灯をつけた車によるパトロールや、普段の買い物、犬の散歩などの時間を利用した見守り活動をはじめ、花壇の手入れをしながら子どもたちに声掛け・見守りを行うなど、いろいろな防犯活動が行われています。

詳しくは、お住まいの地域のまちづくりセンター(次ページ参照)や町内会にお気軽にお問い合わせください。



知っていますか？「割れ窓理論」

たとえ1枚でも窓ガラスを割れたまま放置しておくと、住民が地域に関心がないことの象徴となり、割られる窓が増え、いずれは地域全体が荒れてしまう。軽微なことでも放っておかず、環境を整える必要があるという理論です。美化美化運動隊の活動のほか、歩道の升花壇への花植え活動などもこの理論に基づいているといえます。

